



ほんものを たべよう

提出日

1/ 火 水 木 金
26 27 28 29

配達日

2/ 火 水 木 金
2 3 4 5

翌々週分配達日

2/ 火 水 木 金
9 10 11 12

2021.2月1週号

オルターの提案

本当に安全な食べものを手渡すために

- 「だれが・どこで・どのようにつくったか」の情報を日本一公開します。
- 「国産」「無農薬」にこだわり、日本の伝統食を守ります。
- 原料段階・飼育段階からポストハーベスト農薬、遺伝子組み換え、放射能汚染、トランス脂肪酸、食品添加物などを徹底的に追放します。
- プラスチック容器・レトルト食品を追放します。

Alter Weekly Order Catalogue

野菜

国内有数の有機農業者集団

有効微生物を活用

有機栽培あゆみの会 / (有)アグリクリエイト

文責 西川 榮郎(NPO 安全な食べものネットワーク オルター 代表)

オルターへはネオニコチノイド系農薬の使用のないものに限定してお届け

有機栽培あゆみの会(佐藤一徳理事長)とその流通事業を担う、(有)アグリクリエイト(斉藤篤司代表・斉藤公雄会長)はオルターへ米、野菜(にんじん、さつまいも、ベビーミックス野菜、おかひじき、生落花生、サラダごぼうなど)、果物(いちご、タカミメロン)、きのこ(生きくらげ、エリンギ)、農産加工品(干し芋、石焼き芋など)を届けています。

それらの中にはオルター基準◆のものもありますが、原則無農薬栽培のもので、オルターへ出荷するものについてはネオニコチノイド系農薬の使用のないものに限定して出荷していただいています。

放射能防御ラインは1Bq/kg以下

3・11フクシマ原発事故のおり、被災された農家もあり、オルターとしても救援カンパを協力させていただいたこともあります。そのときオルターの出した方針「防衛ライン1Bq/kg以下」にも呼応していただき、オルターの厳しい放射能汚染対策にご協力をいただけてきました。

減反政策に反発して出発

有機栽培あゆみの会は1989年、農業に依存しすぎる農業や減反政策に反発した農家5人(斉藤公雄、飯塚幸一、松山俊雄、鈴木俊雄、坂本旭)の方々が結成しました。茨城県は有機農業の国内



の先進地で、その気風も受けています。(有)アグリクリエイトは、その有機栽培あゆみの会が母体となり、自らの農産物の流通、資材販売、食に関する幅広い事業に取り組む会社として1995年に設立されました。

力強い有機農家の集団

アジアモンスーン気候やミネラルの少ない日本の土壌に適した有機栽培の技術を農家に指導して、年々、同じ考えをもつ生産者仲間が増え、現在では千葉県、茨城県を中心に100を超す数多くの生産者・生産グループとともに活動をしています。

オルターとは斉藤篤司代表の父、斉藤公雄会長の時代からの提携です(オルターカタログ1999年10月3週号でご紹介)。

有効微生物を活用

有機栽培あゆみの会の栽培基準は、

- ①有効微生物で完熟醗酵させた有機質肥料を使用
- ②農薬の使用は極力避け、昔ながらの防除方法
- ③土壌分析と微生物・酵素の活用による安全でバランスの取れた土壌作り
- ④各野菜の生育にあわせた適期かつ効果的な追肥
- ⑤土壌生態系を整え、土壌消毒剤は使用しません
- ⑥畑や堆肥の有機物質チェックをし農産物の安全性を追求
- ⑦食物残渣リサイクルで環境循環型農業の確立

です。



(有)アグリクリエイトの斉藤公雄会長と斉藤篤司代表

有効微生物の活用が肝で、1999年のオルターの会員集会で当時の代表、現会長の斉藤公雄さんは、「微生物を使わない有機農業は有機農業でないと思う」と印象深い言葉を残しています。

農家を支える流通事業

(有)アグリクリエイトには社員17名、パートタイマー14名の31名のスタッフが有機農産物を含む穀物、青果物、加工品をはじめとする流通事業に取り組んでいます。1日最大約3000パックの袋詰めを行う有機JAS対応のピッキングセンターも稼働しています。

お米は1年間を通じて供給できるよう専用の低温保管庫を設け、玄米のまま保管しています。注文を受けてから専用精米プラントにて搗精(とうせい)を行い、出荷しています。無洗米(乾式)に対応し、色彩選別機、異物混入を防ぐ自動包装機などをフル整備しています。

にんじんを中心にじゃがいも、玉ねぎ、ごぼうなど年間供給できるよう大型冷蔵庫を保有しています。

農業振興事業として農業土木工事や農作業を請け負っています。

地域の環境活動(1部)と環境保全型農業(2部)の2部制の活動基準を達成する実践活動が認められ、2008年には農林水産部部長賞も受賞しています。

「有機栽培あゆみの会」では、会員メンバーの圃場の「土壌検定」とその結果を踏まえた「施肥設計」などの技術的アドバイスをこなっています。

「土壌検定」については、

- ①物理性：必要量の酸素、水はけのよさや日当たりなど
- ②生物性：土の中の微生物のバランス
- ③化学性：窒素、リン酸や石灰、苦土、加里などのミネラルのバランス

といった観点で考察し、土壌分析にDr.ソイル検定器を用います。

地元の農民にとっても、私たちオルターにとっても心強い味方です。



(有)アグリクリエイト農業振興事業部の皆さん